

事業名	サービスラーニング（ESD=持続可能な開発のための教育）事業
事業分類	国際理解・交流事業
支援対象	小・中・高校・大学・HG 日本語教室、New Child Care Center (NCCC)、HG 日本語教室

活動概要：学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。

子ども達が、世界の現状（貧困・環境・平和など）に目を向け、グローバルな視点から、国際理解（異文化理解）を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演、IT 機器による交流（メール、スカイプなどを利用）、ビデオ、文通、カボジアの留学生・研修生などの話を聞く、現地を訪問するなど、様々な手段を利用。そして交流したなかで、異文化理解や持続可能な開発などについて考え、自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。

1) 出前授業

18 回の出前授業を実施（代表、HG 本部スタッフ、東南アジア事務所スタッフ、日本語教師、留学生）。実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解し、自分たちでもできる活動を考える。

岡山市立平福小学校 岡山市立西大寺小学校 岡山市立第 3 藤田小学校 岡山市立野谷小学校 岡山市立政田小学校 岡山市立西小学校 岡山市立曾根小学校 岡山市伊島小学校 岡山市立建部中学校 岡山市立京山中学校 岡山清秀中学校 岡山学芸館高校



スカイプ交流は楽しい

2) 交流

手紙やプレゼントの交換をしたり、ビデオやスカイプでの交流を通して異文化理解を深めた。日本の教室と現地をスカイプで結んで、お互いに歌やスポーツを披露しての交流は、両国の子ども達にとって、直接顔が見え声が聞こえる機会になり、感動的だった。



3) 設備・物資支援（日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材に使用）

アンコールウォーキング大会、体育教育研究指定校、運動会などに必要な物資を、日本の協力学校が集め、物資はツアーで持ち込み、必要な所に配付。募金はマット、鉄棒、平均台などとして贈呈。支援物資は、Tシャツ、ワイシャツ、教材、文房具、歯ブラシ、カンダー、石鹸、タオル、遊具など。施設支援は、鉄棒 7 校、マット 8 校に 16 枚、平均台 1 校、ボール多数。



日本からの支援物資

4) 現地受入れ（37 回）

1 月 23 日～30 日に、岡山市教育委員会事務局指導課が主催し小・中学校教員を「ESD に関わるカボジア研修」（政田小・第 3 藤田小・伊島小・曾根小・建部中・指導課）に派遣。交流学校や、ユニセフ/ユニセフ事務所、教育省、教育大学、日本大使館などを訪問し交流。

高校生・大学生、NGO などのスタッフや個人を、カボジアの活動現場に受入れ、国際協力や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、グローバル人材育成に寄与した。

成果

年間を通じて途上国に関わることで、貧困、環境、食料、人権、平和などがつながりをもって連関している事を知り、自分たちでできる事があることを実感。また、自分達のおかれた地域に目を向け、持続可能な社会を協力して作ることを考えることができるようになった。自分たちが支援した募金・物資などが、現地に渡され喜ばれ活用されたことを知ることで、活動の継続につながった。中・高校生には将来の進むべき道にも影響を及ぼしたようだ。友人や家族と共に活動して、自分の身のまわりから変えていくことで社会を変えていく喜びを味わった。本年は教育現場の先生方が現地を訪問されたことで、子ども達にグローバルな視点から異文化理解・国際協力が広がることを期待したい。



岡山市の先生による長縄跳びの授業

今後の計画

現地スタッフやカボジア人などができる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「ESD/持続可能な開発のための教育」に協力して、実践を通して子ども達が地球規模で未来を考え、社会性が育つ活動を進めたい。

日本の青少年を活動現場で受け入れて（インターンやボランティアとして）、体験を通しての成長を育みたい。

助成・協力団体

岡山 ESD 推進協議会、協力小・中・高校・大学、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校、岡山市立第 3 藤田・曾根・野谷・政田・西・平福小学校、岡山市立御津・建部中学校、岡山市教育委員会事務局指導課、東京都立光が丘春の風小学校、順天中・高校飛鳥会、岡山大学、個人支援者、㈱RIGHTS